

河合塾

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【問題】

第5問

問6 生徒Gは、生徒Fとの会話を振り返りつつレポートを書いた。レポート中の空欄 [a]・[b] に入る語句と、空欄 [c] に入る記述との組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 [26]

レポート

Fさんとの会話から、改めて関心をもったことがある。それは、明治以降、様々な思想家が西洋の近代思想と出会う中で思索を深めたということだ。そういえば、夏目漱石は、東西文明を比較することを通じて、 [a] という理想的な生き方を追求した。また、北村透谷は、自由民権運動に参加して挫折した後、自己の内にある [b] を文学の世界で実現しようとした。

その他にも、たくさんの思想家が「近代」というものに真剣に向き合って思索を重ねたことだろう。例えば、 [c]。この思想家以外にも、西欧の近代思想と日本の伝統的な思想との関係をめぐって思索を展開した思想家がたくさんいるはずだ。今後、さらに調べてみることにしたい。

[a]・[b] に入る語句

- ア 他人本位 イ 自己本位
ウ 諦念の境地 エ 内部生命の要求

[c] に入る記述

- オ 志賀重昂は、政府が推進する表層的な欧化主義に反発し、日本の伝統的な美点を強調する国粹主義の立場から、西洋文明の完全な排除を主張した
カ 福沢諭吉は、『東洋の理想』において「アジアは一つ」と主張し、西洋に対抗するアジアの覚醒とアジアにおける日本の指導的な役割を唱えた
キ 丸山真男は、日本には、近代的な主体性の確立をはばむ前近代的な思考のパターンがあるとし、この思考のパターンを「古層」と名づけた

- ① a—ア b—ウ c—オ ② a—ア b—ウ c—カ
③ a—ア b—エ c—キ ④ a—イ b—ウ c—オ
⑤ a—イ b—エ c—カ ⑥ a—イ b—エ c—キ

【 ポイント 】

正解:⑥

この設問は、日本の様々な思想家の考えが理解できているかどうかを試すものでした。空欄aでは夏目漱石の考え方（自己本位）、空欄bでは北村透谷の考え方（内部生命の要求）について、それぞれ判断することが求められます。また、空欄cに入る記述を判断する上では、オ・カ・キの三つの記述（志賀重昂、福沢諭吉、丸山真男）の正誤判断も必要となります。オは「西洋文明の完全な排除を主張した」という説明が不適当でした。カは「福沢諭吉」ではなく、岡倉天心についての説明となっているため、不適当でした。キは「丸山真男」の考え方についての説明として適当であり、これが空欄cに入ることになります。この設問に限ったことではありませんが、倫理の過去問研究や模擬試験の見直しを進めてく際には、選択肢あるいは空欄に入る候補記述の一つひとつについて、それぞれ「誰の考え方について書かれたものであるか」「それぞれの記述が適当に書かれているかどうか」にこだわって学習していきましょう。正解とはならなかった選択肢の記述について、「この記述は誰の思想について書かれたものであるか」「なぜこの選択肢が正解ではないのか」を積み重ね考えていくことが、倫理の知識事項の幅広い復習につながります。不正解だからといって無視せず、注意深く解説文・学習の手引きなどを読み返し、理解を深めていきましょう。特に日本思想や西洋近現代思想においては、教科書に掲載されている人物の数が多く、一つの設問で多くの思想家に関する知識を横断的に扱う設問も見られやすいです。教科書を用いて、見落とし人物（未習の思想家）がいないかどうかの最終チェックを行うことをお勧めします。